

趣旨説明

大西直之
中部大学

大会実行委員長の大西です【スライド1】。シンポジウム開催にあたりまして簡単に趣旨をご説明いたします。発表要旨集の方にも長い文章を書いてしまいましたので、ここではごく簡潔に全体の進行の流れなどを中心としてご説明差し上げます。

まずテーマ設定の背景ですが【スライド2】、皆様方が日々感じていらっしゃるそのものと同じだと思いますけれど、主体的な学びとは何か、大学における学びというのはどのようなものか、どうあるべきか、といったところの個人的な問いから始まっています。そんな中で、ここ数年いろいろな方々と出会ったり交流させていただいている中から、コミュニティとのかかわり、社会への接続、社会を見据えた成長、というものが重要であると確信するに至って参りました。皆様方と共有できると思うのですが、そんなことがきっかけになってこのシンポジウムを企画致しました。

大会のテーマは「初年次教育と学生コミュニティ」となっています【スライド3】。テーマについて諸先生方に相談した時に、大学コミュニティの方がよいのではないか、いや初年次教育だから学生コミュニティでよいのではないか、など、いろいろなご意見をいただきました。学生同士のコミュニティが広がっていった教職員を含めた大学全体のコミュニティにつながっていくのだと思います。そしてその教職員を含めたコミュニティの中での自由な、本当に内発的な自由な学び、というものこそが大学を特徴づけるものであろうということ、そして教育機関としての大学はやはりそこから社会につなげていく、社会の構成員を育てていく、ということが重要な役割として求められているんだろうな、というようなことを感じながら、このシンポジウムの構成を考えていき、諸先生方・登壇者の先生方をお願いして今日この場を迎えることができた、というような状況です。

シンポジウムの構成なのですが、学生コミュニティということだと、もう皆様方が日々感じていらっしゃるのだと思いますが【スライド4】、今の学生たちどうなんだろう、というようなこと、これは世代のギャップだけではなくて、何か少し違うような、でも同じような、どうなんだろうなということがやはりあると思います。まずは基調講演でその現状について社会学の視点から土井隆義先生に90分のご講演をいただき、その後、これを第2部につなげていくことで現場の実践者の皆様方の話題提供・報告をいただく、という流れを考えております。

そのなかでは、ひとつの軸としてはやはり初年次教育ですから高校から大学へつながっていくという流れ、そしてもうひとつは、授業の中と外という関係を考えました。そして、非常に大雑把ですけども、その中で、高校から大学へ、授業外から授業内へという流れに沿って、山口先生、小崎先生、秦先生、そして安永先生の順番で、それぞれの実践報告をいただく、という風に考えております。さらに、安永先生には4名の実践報告者全体の

まとめとしての役割もお願いしながら、再び授業外へ、社会へとつなげていく、というようなお話を期待しております。

そういった流れで進めていきたいと考えていますが、長いセッションになってしまいますので、お配りした質問票を活用しながら前半の基調講演と後半の実践報告をつなげていくという試みもやってみたいと思います。基調講演に対していただいた皆様の質問、疑問、問いかけというものを、後半で実践報告者の方にも投げかけるということを意識した質問票になっています。のちほど休憩時間に回収しますので是非お願い致します。

そして、大会のテーマでもありますので、今日ここで終わるのではなく、このあと明日の午前中のラウンドテーブル4で、初年次授業における TA, SA の役割、というセッションを行います。パラレルセッションになりますが、ご関心ある方は是非ご参加下さい。そこでは、京都産業大学の松尾先生にも加わっていただき、より具体的にどうしたら、というようなところを話し合うことができればと思います。そしてまた、明日の後半の自由研究発表ではピアサポートのセッションもあります。そういったところで是非皆様方と議論を深めることができれば幸いです。

ということで、これで私の話を終わって、土井先生の基調講演につなげていきたいと思っております。ありがとうございました。

 初年次教育学会第10回大会
大会企画シンポジウム

初年次教育と学生コミュニティ
— 授業内外で育む学びの成長 —

趣旨説明

大会実行委員長 大西直之 (中部大学)

1

テーマ設定の背景

「主体的な学び」とは何か？

「大学における学び」とは何か？

「コミュニティ」とのかかわり

「社会を見据えた成長」

2

大学とコミュニティ

学生コミュニティ
大学コミュニティ
社会へのまなざし
社会への接続

↓

学習観の
転換
自由で
内発的な
学び
学びの
「成長」

3

シンポジウムの構成

2. 教育現場の実践

授業内 ← 大学 → 授業外

↑
高校

1. 現状認識・問題提起

学生コミュニティの現状と課題

4